

HSS 研修報告

2012年5月10日～5月14日

研修先：Hospital for Special Surgery

参加：江本院長、理学療法士 池田



今回の研修先は、アメリカ合衆国ニューヨーク州にある、**Hospital for Special Surgery** という施設です。

140年以上の歴史を持つ**HSS**は、整形外科部門で2011年度全米No.1を誇り、人工関節（膝・股など）の手術が一週間に200例以上行われています。

外観はとても歴史のある建物にみえ、すぐ近くにはハイウェイが通っていました。

今回は、**Dr.Boettner**の招待で**HSS**の研修をすることができました。

Dr.Boettnerは、ここ**HSS**だけではなく、ドイツにも病院があり、月に1/4はドイツで診療をしているとのことで、二カ国を掛け持ちしてあるスーパー**Dr.**でした。

手術室は全部で21室ありました。

患者に麻酔をかけ、機材を準備した段階で、天井から下げられているアクリル板のようなもので手術台を中心にかこみ、手術室内にもう一つのクリーンルームを作って手術開始となります。

アクリル板の一部分に物の受け渡しができるような小さい窓が存在し、術中にインプラントなど清潔のものを渡す際は、この窓から渡していました。



今回、江本院長は5例の手術に立ち会われました。手術着、T4フードは、当院使用のものと同様でした。足元は、院内を履いている靴にカバーをかぶせた状態で手術を施行されていました。

Dr.BoettnerのTKAは、全例がPSタイプ（後十字靭帯切除型）、インプラントの固定はオールセメント、Patella置換で行っているとのことでした。

TKAの平均年齢は、当院では70歳代ですが、HSSでは70%が60歳以下とのことで、適応年齢の違いが分かります。

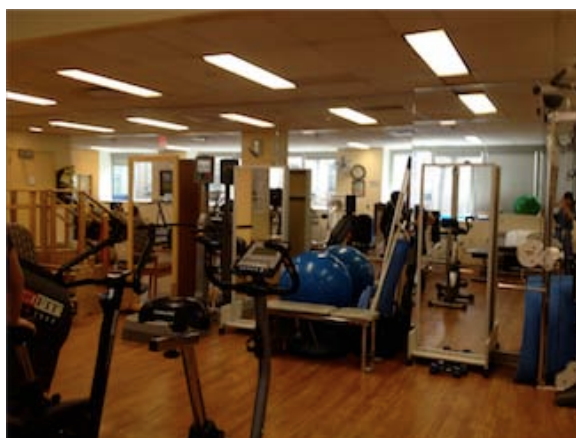


Virginia F. and William R. Salomon Rehabilitation Center

続いてリハビリ室です。

リハビリ室は大きく、関節部門、小児部門、ハンド(手・肘)部門、スポーツ部門の4つに分かれていました。PTは80名いるとのこと。HSSの近くには、カイロプラテック等の施設があるため、HSSにはPTのみが在籍しているとのこと。

joint mobility centerで、外来の患者さんのリハビリが行われるところです。フロントにてチェックインし、担当のPTから声がかかるまで、待合室で待つというシステムです。広さは、当院のリハビリ室の1/3程度ではありませんでしたが、当院でもおなじみの自転車エルゴや、トレッドミルなどが配置されて、トレーニング機器が揃っていました。



入院患者さんのリハビリは、リハビリ室ではなく病室もしくは病室のあるフロアにて行うとのことです。

術直後よりリハビリを開始し、CPM(continuous passive motion 持続他動運動装置)を用いて膝関節の曲げ伸ばし、起立、歩行練習を行っているとのことでした。CPMは、病室にて朝2時間、昼2時間、夕方2時間の6時間使用しているとのことでした。入院期間は、3日間で、退院前には階段昇降の練習を行い、患者のレベルで杖又はピックアップウォーカーを使用し退院を迎えるそうです。入院患者に治療をする時間は患者一人あたり一日に40分弱とのことでした。

スポーツ部門では、スポーツ復帰を目指す方のリハビリを行っているそうです。joint mobility centerと同様の機器が揃っていました。中には、当院にもあるALTER-Gもありました。

小児部門には、18歳未満が対象となるが、実際の利用者はもっと若く、30～40分程1対1で治療を行うそうです。

ハンドセラピー部門では、手や手指のリハビリに加え、スプリントなどの装具を作ります。ハンドセラピストになるには、PT・OTとして5年間の臨床経験を行い、その後1年間専門の学校に通い、ハンドセラピストの資格を取得できるそうです。その後も5年おきに試験が行われるとのことでした。



Family Atrium という手術を受ける方の家族の待合い室がありました。

そのフロントには、右記のような掲示がありました。

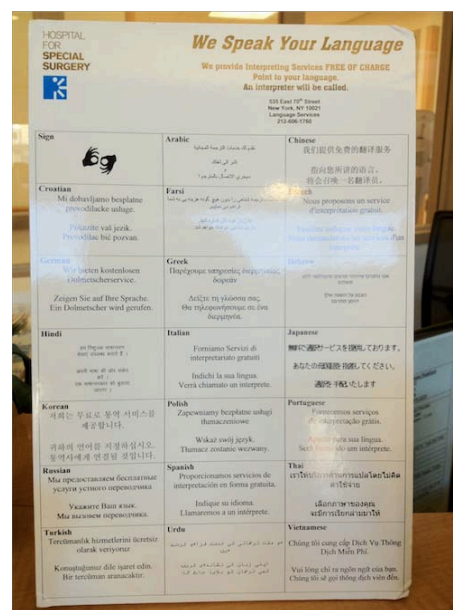
表記内容

無料で通訳サービスを提供しております。

あなたの母国語を指差してください。

通訳を手配します。

この表記が、中国語、イタリア語、ドイツ語、ヒンディー語、手話など 20 カ国の言葉でがされており、日本語の表記もありました。



研修の夜には、Dr.Boettner との会食を設けて頂きました。

手術手技についてやプライベートのことなど様々な話しをして頂き、とても有意義な時間を過ごすことができました。



研修を終えて

海外研修は 2 回目の参加をさせて頂きました。

今回の研修でようやくアメリカの病院事情が少し分かってきたような気がしました。

というのも、勉強会にて「海外の PT は触らない」と院長よりよく話しは聞いてはいたものの、自分の中でどこか疑っていた部分があったからです。医療制度や国民性の違いから現在の日本の医療とは異なる点が数多くありました。

PT が患者に触って治療を行うのは最低限であり、自分で行うことの指導が徹底されていると感じました。HSS でも患者へのパンフレットが充実しており、患者の知りたい情報が表記されていました。また、院内の掲示物をはじめ、情報の発信がうまくなされており、参考にできる点が数多くありました。

多くのことを学び、今後の自分自身のスキルアップと、これからの当クリニックの向上において必要なことが何かというヒントをたくさん得ることができたと思います。現在、リハビリの施設は数多くあります。その中で当院を選んで頂けるような体制を今後作っていく必要があると感じました。

この研修で見てきたこと、感じたこと、数多くのことを、他スタッフに、そして患者さんに伝えていきたいと思います。

このような貴重な機会を与えて頂き、本当にありがとうございました。